

特集

ジャムコを支える、
隠れた「技術」



株主のみなさまへ

第 **8** 期
決算報告書

2019年4月1日
→ 2020年3月31日

2019年度ハイライト



写真提供：国立環境研究所



当社が開発した大気観測装置



詳細は
P.8
TOPICS 01



詳細は
P.8
TOPICS 02



詳細は
P.8
TOPICS 03

ごあいさつ

当社航空機内装品製造に関して発生した不適切な品質事案に関しましては、株主の皆さまをはじめ、関係者の皆さまに対し、長らくご心配とご迷惑をお掛けいたしました。

今後も引き続き、「技術のジャムコ」として品質第一・コンプライアンス重視を徹底する企業風土への改善を進め、再発防止策を確実に実行し、全社一丸となって信頼回復に努めてまいります。

2020年3月期の業績について

2019年度(2019年4月1日～2020年3月31日)の決算は、売上高は増加したものの減益となりました。

当連結会計年度は、米中通商問題や英国のEU離脱をめぐる混乱への懸念などにより、景気の減速感が高まるなか、第4四半期に入り、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、世界経済は一段と厳しい状況となりました。このようななかで、ドル円為替相場は対米ドル円レート112円台前半から103円台前半で推移しました。

航空輸送業界では、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大の影響で、各国において

渡航禁止令が発出されるなど、それまで堅調であった旅客需要が急激に減少し、経営環境は大きく悪化しました。又、航空機メーカーにおいても、航空需要の急激な落ち込みにより、ボーイング社、エアバス社共に大幅な減産が計画される状況になりました。

当社グループでは、航空機内装品等製造関連・航空機シート等製造関連においては、2019年3月26日に公表しました不適切な品質事案に対して、原因究明・安全性の検証を行うと共に是正・再発防止に取り組み、より高いコンプライアンス・品質意識への変革を進めました。

航空機器等製造関連においては、生産性改善に取り組むと共に、これまで培った金属加工技術を生かし、内装品やシート部品の内製化を進めました。

航空機整備等関連においては、飛行安全の確保と品質向上の取組みを継続すると共に、エアライン向け機体整備の拡大に努めました。

この結果、当連結会計年度の経営成績は、売上高91,535百万円(前期比7,467百万円増)、営業利益1,807百万円(前期比2,513百万円減)、経常利益1,178百万



代表取締役社長

大喜多治年

技術のジャムコは、士魂の気概をもって

- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めていきます。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。



円(前期比2,112百万円減)、親会社株主に帰属する当期純利益605百万円(前期比1,304百万円減)となりました。又、配当につきましては、1株当たり20円(連結配当性向88.6%)とさせていただきます。

なお、当連結会計年度末に次期以降の完成工事に対する工事損失引当金を3,607百万円計上しています。この工事損失引当金による期間損益への影響は、当第4四半期連結会計期間において売上原価460百万円の減少(当第3四半期連結累計期間末の工事損失引当金は4,068百万円)、又、当連結会計年度においては売上原価173百万円の減少(前連結会計年度末の工事損失引当金は3,781百万円)となりました。

グループ全体の販売費及び一般管理費は、保証工事費、販売手数料の減少などにより8,636百万円(前期比684百万円減)となりました。

営業外損益は、支払補償費の減少はありましたが、前連結会計年度末よりも為替相場が円高で推移して為替差損益が悪化するなどにより629百万円の損(前期は、1,030百万円の損)となりました。

特別損益は、賠償保険により品質事案に係る受取保険金60百万円を計上しましたが、

品質関連損失などにより、279百万円の損(前期は、263百万円の損)となりました。

今後の見通し

新型コロナウイルス感染症拡大の今後の行方は予測できないことに加え、感染症の影響により世界経済は厳しい状況が続くことが見込まれています。

当社グループが関連する航空輸送業界では、感染症の影響により各国の渡航禁止令などによる旅客需要の急減を受け、世界のエアラインの経営環境は大きく悪化しており、又、航空需要の急減を受け、航空機メーカーは大幅な減産を余儀なくされています。

航空輸送業界の動向が直接的に影響する当社にとって、感染症の終息時期が不明な現時点では、業績予想の合理的な算定が困難であることから2021年3月期の連結業績予想については未定とさせていただきます。業績予想の開示が可能となった段階で、速やかに公表いたします。

又、2021年3月期の配当金につきましても、現段階では未定としており、業績予想の開示が可能となった段階で、業績予想とあわせて速やかに公表いたします。

ジャムコ用語集

株式会社ジャムコの航空業界用語集をご覧ください。

ギャレー

航空機内の厨房設備のこと。長時間のフライトの中で、お客さまに美味しい料理を提供するために欠かせない場所だと言えます。

※ジャムコのギャレーは世界シェアおよそ40%(中大型機：当社調べ)



ギャレーインサート

航空機用ギャレー(厨房設備)に搭載される調理器具のこと。ギャレー同様にキャビン・クルーが最も効率よく使いこなせる機能、操作性、耐久性が求められます。



品質問題の再発防止に向けて

当社航空機内装品製造における認定事業場の業務に関して発生した不適切な品質事案については、株主の皆さま及びお客さまをはじめ、多くの方々に多大なご心配とご迷惑をおかけしております。当社は、2019年11月12日に東京航空局へ業務改善命令に対する措置報告を提出し、現在、再発防止に向けて様々な施策に鋭意取り組んでおります。

再発防止策(具体例の一部)

(1)安全及びコンプライアンス意識の徹底、規程等の遵守に係る教育の実施

コンプライアンス意識の維持・向上を目的に2019年9月から2020年1月にかけて、役員をはじめ認定事業場における全社員を主な対象者として、有識者による安全に関する講話、当社品質保証部による品質・コンプライアンス教育及び専門家によるコンプライアンス専門教育を実施しました。今後も継続的に安全講話や品質・コンプライアンス教育を実施し、安全意識の徹底に努めてまいります。

(2)安全管理体制の抜本的な見直し

安全推進部を新設し、安全に影響を及ぼす事象の的確な把握と必要な処置を講じることを目的に、安全マネジメントシステム(SMS)^{*}を確実に実行・活用することで品質・安全の維持・向上に取り組んでおります。又、職場アドバイザーを配置し、職場アドバイザーが各職場を毎日巡回することで、現場の声から品質・安全に係る情報を吸い上げ、改善に役立てております。更に、「意見箱」の設置及び各事業場と関連する子会社の全社員向けに「ダイレクト・トーク」を実施し、従業員が直接、執行役員以上の経営陣に意見を伝えることができる機会を設けました。これらの取組みにより、風通しの良い組織作り・コミュニケーションの改善を図っております。

※安全マネジメントシステム(SMS)とは国際民間航空機関(ICAO)が提唱し、それを各国の航空当局が批准し、航空局主導のもとで航空業界の各社が採用かつ国土交通省も強く推奨している安全への取組みのことをいいます。

(3)業務実施体制の抜本的な見直し

航空機内装品・機器事業本部の各部門のもとにあった検査組織を集約し、事業本部直下に検査部を新設したことで、各部門の影響を受けない、より独立した検査と検査業務の把握が行える体制を構築しました。

又、受入検査及び補用品の出荷前完成検査の品質記録への記入方法については、2019年10月から生体認証(顔認証)システムを導入し、検査記録の改ざんやなりすましなどの不正行為を防止する仕組みを構築しました。



社長による「ダイレクト・トーク」の様子



導入した生体認証システム

ADP (ADvanced Pultrusion)

ジャムコが独自に開発し、特許を取得したプリプレグを用いた炭素繊維複合材(CFRP)の連続成形製法です。炭素繊維構造部材は今後も航空機及び多様な分野で使用される見込みであり、生産体制を整え、さらなるADPの研究開発に取り組んでおります。



大気観測装置

CO₂濃度連続測定装置及び自動大気サンプリング装置の2種類。大気観測装置が搭載されている航空機からは、観測データが連続々と取得されており、国立環境研究所において、分析・解析が行われております。これらの観測データは、地球温暖化防止の研究に貢献しています。



中期経営計画

中期ビジョン

航空機分野に特化し、内装品事業を基軸に、機器製造、航空機整備の能力を集約し、
航空機内装品のリーディング・カンパニーとなる

中期経営指標

収益性指標

連結経常利益率

7%以上

効率性指標

連結ROA

7%以上

配当方針

連結配当性向

20~30% を目安とする

新型コロナウイルス感染症の終息時期が不明な状況であり、当面は厳しい経営環境が続くと想定し、将来の航空需要回復に備え、業務のムリ・ムダ・ムラを排除し、更なる生産体制の効率化を推進いたします。

また、世界的な航空需要の低下は、すべての事業に大きな影響を及ぼす見込みであり、全社レベルで品質、生産、財務、人財、IT戦略を含めた業務プロセスの改革を推進し、品質向上と共に収益力の向上をめざしてまいります。

※中期3カ年計画の業績予想については、新型コロナウイルス感染症による影響を現時点で合理的に算定することが困難であることから、未定としております。
今後、開示が可能となった段階で公表いたします。

詳細な決算情報は、右記のQRコードから当社ホームページにアクセスいただき、「業績・財務」からご覧いただけます。



<https://www.jamco.co.jp/ja/ir/finance.html>

中期の課題と対応

航空機内装品

- ① SMS(安全管理システム)の確実な実行と、QMS(品質管理システム)の見直しによる品質管理体制の強化に取り組み、顧客からの信頼回復を行う。
- ② グローバルな競争環境の変化への対応に加えて、競争力の強化、為替変動リスク対策として、国内外における生産拠点の戦略的な整理に取り組む。
- ③ 「技術と品質のジャムコ」として、QCD：品質・コスト・納期の更なる向上、新規設計開発の確実な実行、次期内装品事業の成長の種(新規分野・新技術・新材料)へ積極的に投資を行い、競争力強化を推進する。

航空機シート

- ① 過去に受注したカスタムメイドシートにおける初期開発・製造原価超過の影響が残るものの、2021年度中には納入を完了予定であり、黒字化と安定的な収益基盤の構築のため、標準型プラットフォームを活用したビジネスクラス・シート(Venture)の販売拡大に取り組む。
- ② マネジメント力の向上及びグループ・サプライチェーンの連携強化を図り、標準型プラットフォームを活用した次期プレミアム・シート供給体制の整備を行う。
- ③ ビジネスクラス・シート(Venture)の販売拡大に取り組む一方で、標準型プラットフォームを活用した次期プレミアム・シートの開発により、継続的な成長戦略を実行していく。

航空機器製造

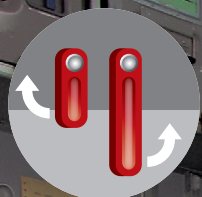
- ① 設計製造能力の向上、Nadcap認定を取得している特殊工程技術力の活用により競争力を強化し、技術的付加価値の高い製品の受注を促進すると共に、付加価値と競争力による受注品目の選択と集中を図る。
- ② ADP事業は新製品の開発および他企業との協業、新規分野への展開を含めてビジネスモデルの再構築に取り組む。
- ③ 機器製造の技術力を内装品事業・シート事業へ適用しシナジー効果を高める。

航空機整備

- ① 選択と集中により高付加価値を提供するMRO(Maintenance Repair Overhaul)事業への転換を推進し、安定した収益を上げることのできる事業基盤の構築を目指す。
- ② 整備事業を通じて得た情報を内装品・シート・機器事業へフィードバックすることで、グループ経営におけるシナジー効果を高めることに取り組む。

ジャムコを支える、隠れた「技術」

ギャレーの秘密に迫る。



Q 長さが異なる
2本の赤色ロックは何？

～ターンリテイナーを知る～

A 皆さんが飛行機に搭乗し、ギャレーを見かけた際に一番目につくのは、赤い色のロックではないでしょうか。

ギャレーに格納されている全ての装備品、ドア、コンテナやカートなどには、収納物が外に飛び出してキャビンクルーや乗客がケガをしないように、又、緊急脱出を妨げないように、必ず二重のロック装置が取り付けられています。

カート用のロック装置であるターンリテイナーには、通常は2本、長さの異なるものが使われています。このうち1本が短いのは、カート本体を安全に保持したままカートの扉を開閉できるようにするための工夫です。カートがギャレーから飛び出そうとする力は最大で1トン以上にもなりますが、ターンリテイナーには一本でその力を保持できる強度が与えられています。

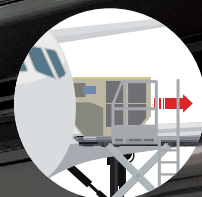


Q 飛行機は空を水平飛行しているときでも機体は水平の状態ではない？

～機体の角度とギャレーの関係～

A 飛行機は、水平飛行の際、翼に働く揚力と推進力の関係から、機首を若干上げて斜めの状態で飛んでいます。その機首上げ角度は約3度です。

ギャレーには、空飛ぶキッチンと呼ばれるように給排水管やシンクが付いており、飛行機に垂直となるように取り付けられています。機体が斜めになると水もギャレーに対して斜めに落ちるので、蛇口からの水が必ずシンクで受けられるように位置関係を考慮したり、シンクの底面や排水管には最低4度以上の傾斜を設けて、水平飛行時でも地上駐機時でも必ずシンクの水が排水管に流れるように設計されています。



Q ギャレーはどうやって飛行機から取り出すの？

～ギャレーの搬出・搬入方法～

A 飛行機は数年に一度、大掛かりな整備を行います。このときに、ギャレーを飛行機の外に取り出さなければなりません。飛行機のどこから取り出すかわかりますか？

実は皆さんが搭乗の際に利用する搭乗口から搬出されます。ギャレーは、搭乗口に合わせた大きさに造られています。サイズが大きいギャレーは、搭乗口から搬出できるように上下に分割できる構造になっています。中には、上下だけではなく左右又は4つに分割されるギャレーもあります。分割されているギャレーが1つの設備に見えるのは、ギャレーの外装にデコラパネルといわれる化粧板を設けて、分割部分が見えないように工夫してあるからです。

TOPICS
01

ボーイング787型機 1000号機向け内装品の 製造記念セレモニーを実施

2019年12月3日、ボーイング787型機の1000号機に搭載される内装品の製造記念セレモニーを、内装品の主力生産子会社である(株)新潟ジャムコ(新潟県村上市)において執り行いました。当社グループでは、787型機向け内装品として、ギャレー(厨房設備)、ラバトリー(化粧室)、フライトデッキ(操縦室)の内装パネル、収納ボックス及び操縦室ドアと周辺隔壁を供給し、その他にも航空会社へビジネスクラス・シート「Venture」の供給を行っています。2009年3月に同型機向けのギャレーを初出荷して以来、2013年に100号機向け、2016年に500号機向け、そしてそれからわずか3年後の2019年に1000号機向けの生産に達しました。

TOPICS
02

エアバスA350型機向け 後部圧力隔壁取り付け用製品を 初出荷

2019年12月25日、エアバスA350型機向け後部圧力隔壁取り付け用一次構造部材を、プレミアムエアロテック社(ドイツ アウグスブルグ)へ向けて初出荷しました。当社は2016年まで、A350型機を除くすべてのエアバス機向けに炭素繊維構造部材を供給してきました。A350型機向けについては、2016年に貨物室床下構造材(カーゴストラット)の供給を開始し、今回は2つ目となる後部圧力隔壁取り付け用一次構造部材の供給を開始いたしました。当該製品の製造・出荷は、子会社である(株)ジャムコエアロマニュファクチャリング(宮城県名取市)が行い、プレミアムエアロテック社の生産計画に合わせ月産で最大11機を予定しています。

TOPICS
03

アイベックス エアラインズ(株)から 安全表彰を頂きました

2020年1月20日、当社航空機整備事業部機体整備工場の従業員が、アイベックスエアラインズ(株)(以下IBEX社)より安全表彰を頂きました。当該従業員は同工場内において、業務のために移動中、IBEX社の整備チームが修理作業していた機体の異常を発見し、速やかにIBEX社の整備士に報告しました。担当業務外にも関わらず、異常に気付いて即時にIBEX社へ報告したことにより、重大事象を未然に防ぐことに繋がったこと、不具合の発見が遅れ、その分欠航便が増加する恐れを最小限に留めることに貢献したこと、そして日頃の安全運航に対する姿勢と行動が他の模範になるということが評価され、今回の表彰になりました。

E

S

G

Environment
Social
Governance



株主・投資家とともに

適時適切な情報開示と利益還元に努めるとともに、
対話を通じて株主・投資家の皆さまの期待に応えていきます。

IR情報の開示

当社では、経営戦略や財務情報などの企業情報の公開における適時性・公平性・正確性・継続性を重視しています。この考え方にに基づき、情報の管理や開示に関わる規程を定めた上で、財務情報及び非財務情報について、法令に基づく開示を適正に行うとともに、透明かつ公正な開示がなされるよう取り組んでいます。

又、コーポレートサイトにIRサイトを開設し、投資に関わる情報をタイムリーかつ正確に開示するように努めています。このサイトでは、決算短信・有価証券報告書・財務データ・IR資料(決算説明会資料、決算報告書)などを掲載しています。



トップページ



IRサイト



決算説明会資料



決算報告書



CSRレポート

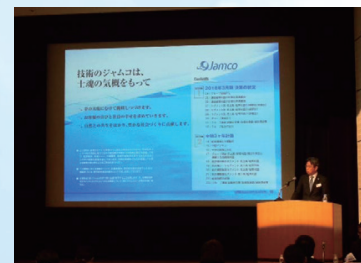
株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション

当社では、当社への正しい理解を深めていただくと同時に、株主の皆さまの権利や平等性を確保するためにも、情報の適時・適切な開示が重要と認識しています。

株主総会の開催や決算報告書などの発行はもとより、証券アナリストや機関投資家の方々に対しては年2回決算説明会を開催し、業績・経営方針などの説明を行っています。そのほか、さまざまな活動を通じ、株主・投資家の皆さまとの対話に積極的に取り組んでいます。

2019年度のIR活動実績

活動内容	実施回数
決算説明会	2回 (第2四半期決算、 本決算)
スモールミーティング	4回
個別ミーティング	25回
機関投資家向け 工場見学会	1回
個人株主向け 工場見学会(今回初)	1回



決算説明会

※2020年3月期の決算説明会は新型コロナウイルス感染症拡大により、当社コーポレートサイトにて動画での配信を行っております。

<https://www.jamco.co.jp/ja/ir/materials/results-briefing.html>



動画配信の様子

(株)新潟ジャムコにて機関投資家、個人株主向け工場見学会を開催



機関投資家向け工場見学会開催の様子



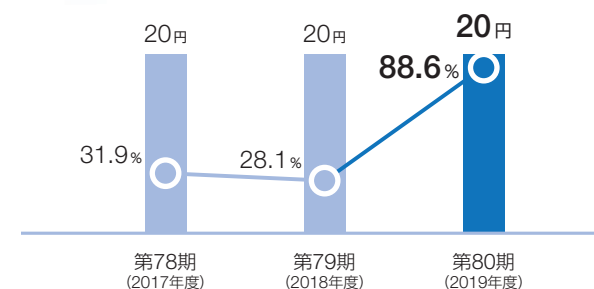
個人株主向け工場見学会初開催の様子

株主還元に対する考え方

当社は、経営基本方針と事業別方針のもと効率的経営を行い、収益の向上を図ることで株主の皆さまには連結配当性向20%から30%を目安に安定かつ継続的に還元を行う所存です。又、事業のリスク発現などによる不測の事態に備え、かつ将来の設備投資などへの資金需要を勘案し、内部留保にも努めることが継続的成長にとって不可欠であり、このバランスを保つことが株主の皆さまへの利益につながるものと考えています。

株主還元

■ 期末配当 ● 配当性向



連結損益計算書(要旨)

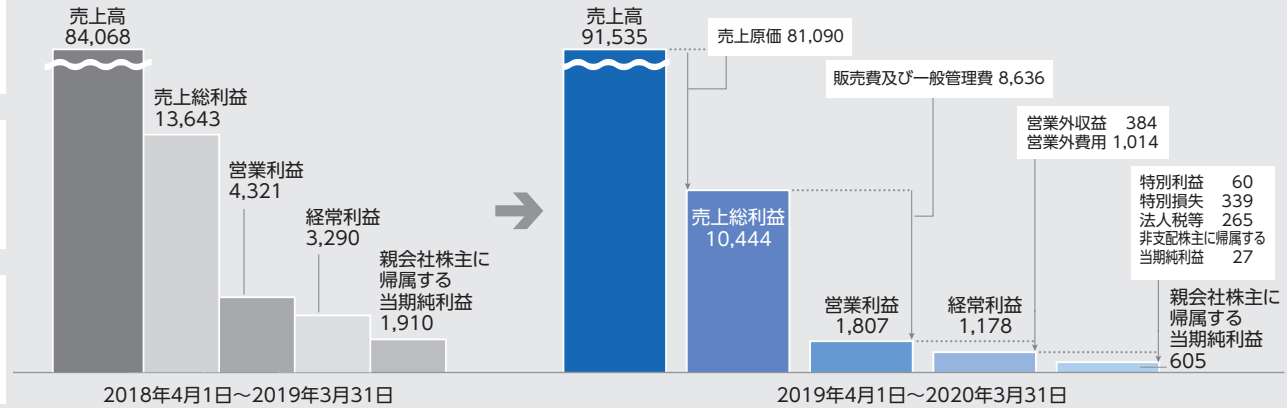
(単位：百万円)

ハイライト

売上高 **91,535**百万円
前期比 **8.9%**増

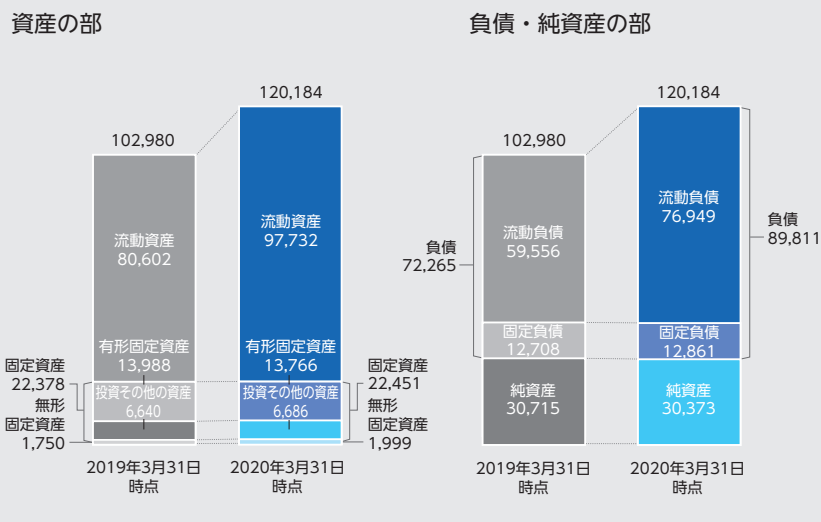
経常利益 **1,178**百万円
前期比 **64.2%**減

親会社株主に帰属する
当期純利益 **605**百万円
前期比 **68.3%**減



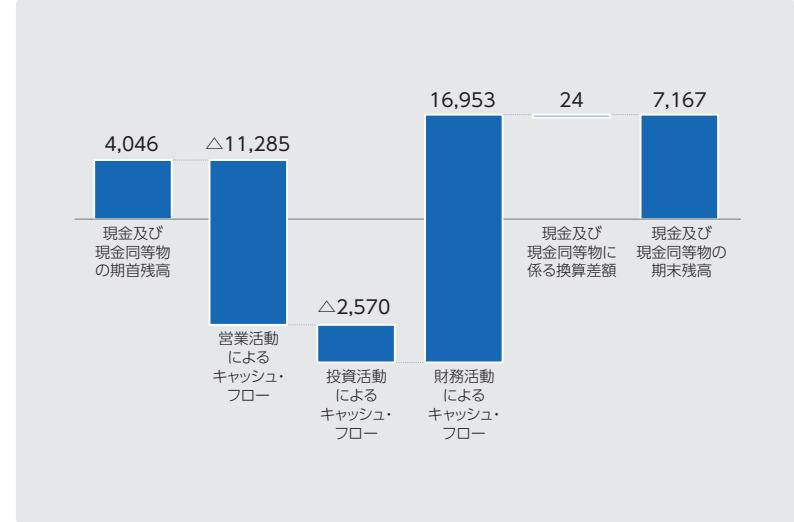
連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

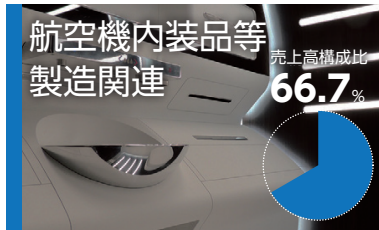


連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

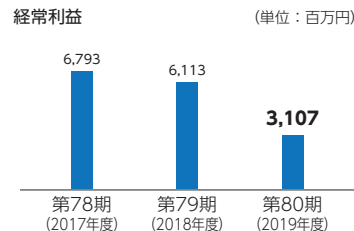
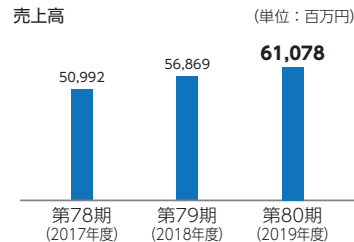
2019年4月1日～2020年3月31日 (単位：百万円)



詳細な決算情報は、右記のQRコードから当社ホームページにアクセスいただき、「IR資料」からご覧いただけます。
<https://www.jamco.co.jp/ja/ir/materials.html>



主な事業
 ギャレー
 ラバトリー
 ギャレーインサート



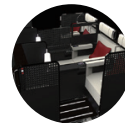
ポイント

売上高

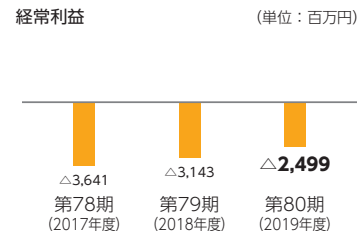
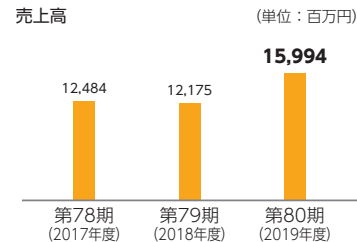
- 航空需要を背景に製品の出荷が増加

経常利益

- 不適切な品質事案への対応により、人件費及び輸送費用が増加
- 前期における採算性の良いプログラムの出荷による反動や為替差損が発生



主な事業
 プレミアム・シート
 シートコンソール



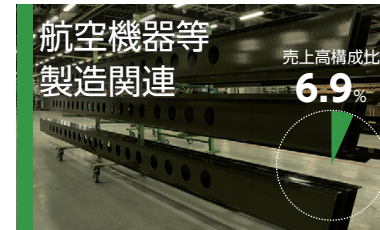
ポイント

売上高

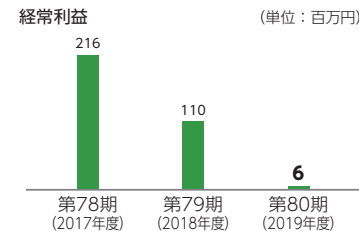
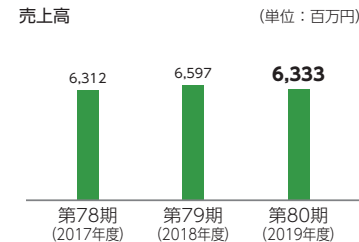
- ビジネスクラス・シート[Venture]の出荷が進む

経常利益

- 不適切な品質事案の対応として一時的に(株)宮崎ジャムコにおける生産を停止し、生産拠点の振替に伴う追加費用が発生
- 一部プログラムの生産性改善の遅れによるコスト増加



主な事業
 空調用機器等
 航空機用エンジン部品
 ADP製品



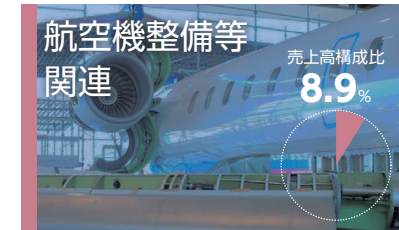
ポイント

売上高

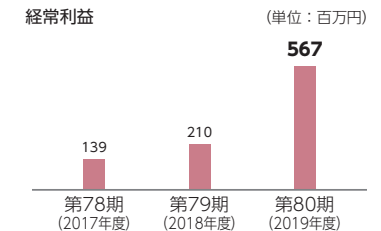
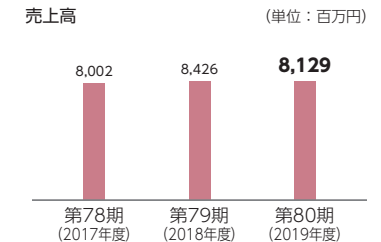
- 熱交換器等装備品や炭素繊維構造部材の出荷が堅調
- 航空機エンジン部品の一部出荷が次期以降に繰延べ

経常利益

- 売上高減少などにより利益減少



主な事業
 機体整備
 装備品整備



ポイント

売上高

- 機体整備及び装備品整備において一部出荷が次期以降に繰延べ

経常利益

- エアライン向け機体整備が堅調に増加し、採算性が向上

会社概要

✈ 会社概要 (2020年3月末現在)

商号	株式会社ジャムコ
本店	東京都三鷹市大沢六丁目11番25号
本社	東京都立川市高松町一丁目100番地
設立年月日	1949年3月15日
創立年月日	1955年9月1日
主な事業内容	航空機内装品等製造関連 ギャレー、ラバトリー、ギャレー搭載用各種装備品等の製造 航空機シート等製造関連 航空機シート及びシートコンソール等の製造 航空機器等製造関連 熱交換器、航空機用炭素繊維構造部材、民間航空機エンジン部品等の製造 航空機整備等関連 航空機、装備品等の整備・改造
資本金	5,359,893千円
従業員数	連結：3,465名 個別：1,194名

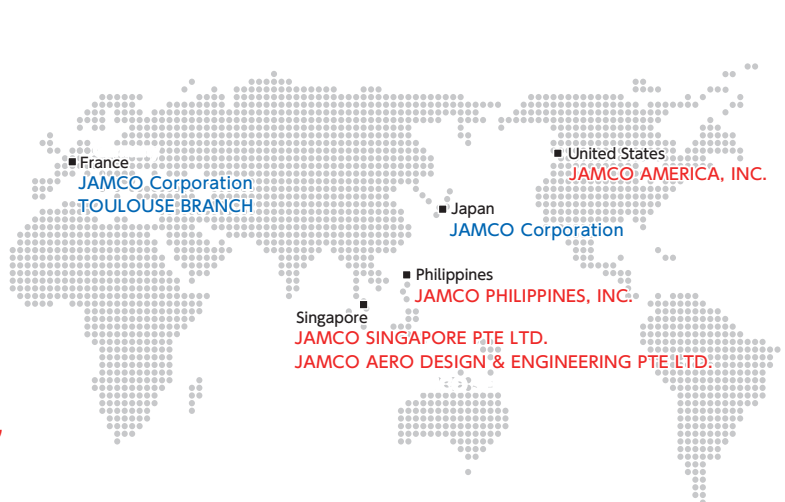
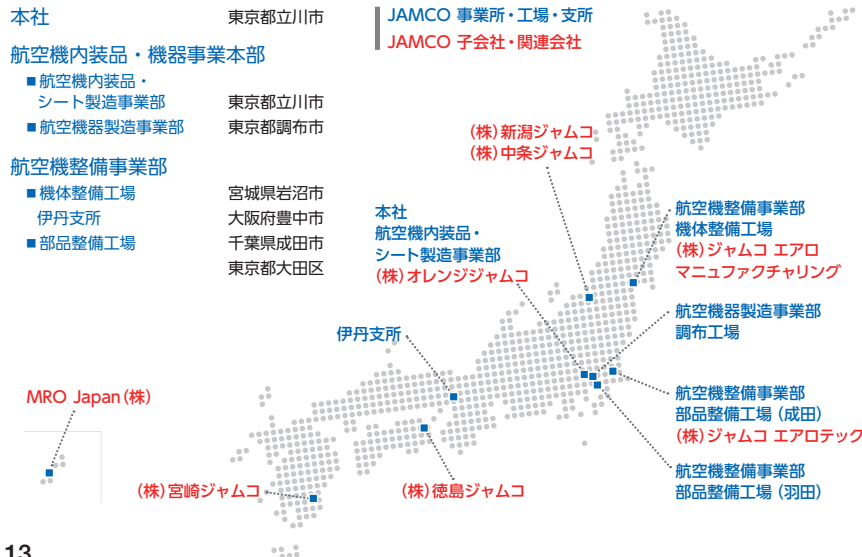
✈ 役員／執行役員 (2020年6月25日現在)

代表取締役社長	大喜多 治年	常務執行役員	加藤 正道
代表取締役副社長執行役員	米倉 隆	常務執行役員	市原 一義
取締役専務執行役員	木村 敏和	執行役員	内城 浩
取締役専務執行役員	田所 務	執行役員	脇 昭博
取締役常務執行役員	後藤 健太郎	執行役員	神山 行雄
取締役常務執行役員	粕谷 寿久	執行役員	大崎 直哉
社外取締役	藤川 寛	執行役員	小澤 恵治
社外取締役	野口 利彦	執行役員	桃園 健志
社外取締役*	鈴木 伸一	執行役員	木本 幸浩
社外取締役*	渡辺 樹一	執行役員	小出 三郎
常勤監査役	磯上 範好	執行役員	板倉 潮
常勤監査役	蕪木 昇		
社外監査役*	高橋 均		
社外監査役*	渡邊 浩一郎		

*東京証券取引所の規定する独立役員です。

事業拠点 (2020年6月25日現在)

✈ 事業所／子会社／関連会社一覧

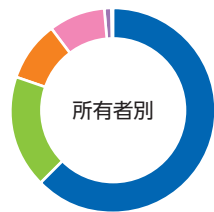


株式の状況 (2020年3月末現在)

株式数・株主数・上場取引所

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式の総数	26,863,974株
株主数	5,541名
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部(証券コード7408)

株式分布状況



所有者別	割合	株数
その他の法人	62.68%	16,838千株
個人・その他	17.76%	4,771千株
外国法人等	9.42%	2,531千株
金融機関	8.85%	2,377千株
金融商品取引業者	1.14%	306千株
自己名義株式	0.14%	38千株

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711(通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.pronexus.co.jp/koukoku/7408/7408.html (但し、電子公告によることができない事故、その他の止むを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。) なお、計算書類及び連結計算書類に係る情報は、インターネット上の当社コーポレートサイト (https://www.jamco.co.jp/) においてご覧いただけます。

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
伊藤忠商事株式会社	8,956	33.38
ANAホールディングス株式会社	5,373	20.03
昭和飛行機工業株式会社	2,003	7.46
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	658	2.45
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	456	1.70
ジャムコ従業員持株会	396	1.47
BNYMSANV RE BNYMIL RE LF RUFFER PACIFIC FUND	300	1.11
JP MORGAN CHASE BANK 385166	268	1.00
三菱商事株式会社	221	0.82
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	203	0.75

(注) 持株比率は、自己株式(38,932株)を控除して計算しております。

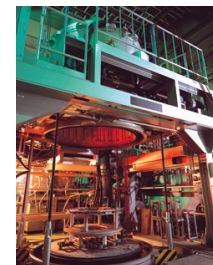
ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできません。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店にお問い合わせください。

航空機器製造事業部 調布工場の拠点紹介

調布工場の事業及び業務の内容を教えてください。

調布工場では、航空機に装備される空調システムの核となる熱交換器、電子機器搭載シャーシ、宇宙開発機器部品、航空機用エンジン部品、複合材製品など様々な航空・宇宙機器製品を製造し、お客様のニーズにお応えしています。



特徴的な技術などがあれば教えてください。

調布工場では、アルミニウム、ステンレスをはじめ、チタニウム、マグネシウム、耐熱合金などの航空・宇宙機器に使用される様々な特殊金属の加工技術を着実に積み上げてきました。溶接、ロー付け、熱処理、放電加工、レーザー加工、機械加工、非破壊検査といった様々な加工方法で製品を製造しており、多くの特殊工程^{*1}のスペックを有しています。2006年以来、ジャムコグループではNDT(非破壊検査)、WLD(溶接)、HT(熱処理)、Composites(複合材)、NM(レーザー加工)の5つの工程において、航空宇宙分野における特殊工程の世界的認証制度 Nadcap^{*2}による認証を取得しています。

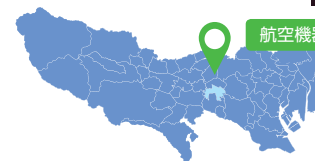
当社の代表的な製品である熱交換器を製造するためには極めて複雑な構造が要求され、真空炉やディップ炉によるロー付け作業、精密な溶接・加工、非破壊検査など熟練した技量による高度で特殊な作業を実施しています。

*1 特殊工程とは溶接や、熱処理など、結果としての製品検査だけでは完成品の品質を保證することが困難な製造工程のことをいう。
*2 Nadcap(National Aerospace and Defense Contractors Accreditation Program・国際特殊工程認証制度)とは、1990年に米国PRI (Performance Review Institute) で開発され、航空宇宙産業関連の特殊工程管理に関する世界標準認証プログラムのことをいう。

調布工場の雰囲気や将来の目標を教えてください。

調布工場は、飛行機好きの若い人達が多く、約180名の従業員が働く風通しの良い職場です。特殊な技術が必要な航空機部品のものづくりを中心とした工場であるため、常にスキルの向上及び技術の継承を行いながら品質の良いものづくりに取り組んでいます。

航空機・宇宙分野の多くの部分に私達の製品が使われ、航空機器製造メーカーとして私達の製品が「なくてはならない存在」となることを目指して日々取り組んでいます。



航空機器製造事業部 調布工場

▼ 創業当時の調布格納庫 (伊藤忠航空整備格納庫)



調布工場の紹介 —ジャムコ創立の地—

1955年9月、(株)ジャムコは伊藤忠航空整備(株)として調布飛行場の当社格納庫において航空機整備修理事業での操業を開始し、1958年3月には工場・事務所建屋を竣工しました。

■ 基本情報

住 所 東京都三鷹市大沢六丁目11番25号
設 立 1958年3月

株式会社 ジャムコ

〒190-0011 東京都立川市高松町一丁目100番地
TEL:042-503-9900 (代表)

※本資料に記載されております当社の計画や予測等は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が独自に判断したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果となることがあります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。
※本資料で使用している文章、写真等の無断での複製・転載を禁止します。



この冊子は環境保全のため、植物油インキとFSC® 認証紙を使用しています。